

当面の検討項目とスケジュール（案）について

	研究会	リサイクルシステムWG	レアメタルWG	環境管理WG	モデル事業
平成 22 年 4 月					モデル事業開始 (継続 7 地域)
平成 22 年 5 月	第 6 回：5/12 ・システムWG 設置 ・今年度検討進め方 ・各段階の課題整理 ・経済性評価の進め方 ・ヒアリング内容整理				
平成 22 年 6 月		第 1 回：6/1 ・関係者意見聴取 第 2 回：6/16 ・関係者意見聴取 第 3 回：6 月下旬～7 月上旬 ・WG とりまとめ		第 5 回：6/11	
平成 22 年 7 月	第 7 回：時期未定 ・リサイクルシステムWG のとりまとめ報告 ・今後の進め方		第 5 回：時期未定		

以下、適宜開催

平成22年度モデル事業の実施について

1. 実施方針

平成22年度においては、モデル事業の継続性と十分な実施期間の確保のため、平成21年度に実施した7地域において、引き続き実施することとする。

2. 実施地域

- 秋田県 (県内全域)
 - 茨城県 (日立市、高萩市、北茨城市)
 - 福岡県 (大牟田市、筑後市、大木町)
 - 東京都 (江東区・八王子市)
 - 名古屋市・津島市
 - 京都市
 - 水俣市
- 合計7地域

3. 実施期間

平成22年4月～平成22年12月末

4. 実施概要

- (1) 各モデル事業における事業内容は、基本的には、昨年と同様とする (詳細については別添「平成22年度モデル事業の概要」参照)。
- (2) なお、京都市におけるモデル事業については、新たに、郵送回収方式による回収を実施する (詳細については、別紙資料参照)。

平成22年度モデル事業の概要 (1/2)

自治体	これまでの事業 実施状況	回収品目	回収方式						昨年度からの変更点
			ボック ス	ピック アップ	ステー ション	集団 回収	イベ ント	その他	
秋田県 (全域にて実施)	ボックス:315日間 (H20.12～H22.2) ピックアップ:320日間 (H20.12～H22.2)	昨年度と同様 (種類を特定しない)	●	●			●		- 回収した小型家電の収集運搬の効率化(ハブ&スポーク方式の拡大) - ボックス設置箇所の再検討(学校等)
茨城県(日立市、 高萩市、北茨城市)	ボックス:393日間 (H21.2～H22.2) ピックアップ:428日間 (H21.2～H22.2)	昨年度と同様 (10品目)	●	●			●		- ボックス設置箇所等の再検討 - イベント回収の拡大検討(地域小規模イベントへの出展) - 周知啓発の強化(ブログ利用)
福岡県(大牟田市、 筑後市、大木町)	ボックス:424日間 (H21.1～H22.2) ピックアップ:445日間 (H20.12～H22.2) ステーション:212日間 (H20.8～H22.2)	昨年度と同様 (13品目)	●	●	●		●		検討中
東京都(江東区・ 八王子市)	ボックス:120日間 (H21.11～H22.2)	昨年度と同様 (種類を特定しない)	●			●	●		検討中
名古屋市・津島市	ボックス:132日間 (H21.11～H22.3) ステーション:89日間 (H21.12～H22.2)	昨年度と同様 (種類を特定しない)	●		●	●			- 回収物の分類項目の追加 - 中間処理後のベースメタル、樹脂類の有価売却性の検討
京都市	ボックス:92日間 (H21.11～H22.1) ピックアップ:2日間	昨年度と同様 (15品目)	●	●			●	●	郵送での小型家電回収実験を実施
水俣市	ボックス:90日間 (H21.12～H22.2) ステーション:90日間 (H21.12～H22.2)	昨年度と同様 (18品目)	●		●		●		モデル事業についての市民アンケートを実施(無作為抽出)

※ 今年度の実施期間は、H22.4～H22.12(約270日程度)

平成22年度モデル事業の概要 (2/2)

自治体	中間処理・レアメタル回収			
	対象物	中間処理方法	レアメタル回収施設	主たる回収レアメタル
秋田県 (全域にて実施)	①各地域で回収した使用済小型家電から次のA～Cのいずれかにより回収物の全て若しくは一部から実際にレアメタルを回収。 A:回収物から特定の鉱種(Ta、Co、In、Ta、W、レアアース等)を狙って回収し、残りの部位・部品から非鉄製錬の手法により最大限に所要の金属(ベースメタル、レアメタル等)を回収。 B:非鉄製錬の手法により最大限にレアメタルを回収し、残りの部位・部品から更にベースメタルを回収。 C:A及びBを組み合わせてレアメタルを回収。 ②①の結果やレアメタル回収可能性検討により、各地域で回収された使用済小型家電が含有するレアメタルの想定回収量を試算。 ③製錬において投入したランニングコスト及び回収されたレアメタルの価値からトータルコストを試算。 → 各自治体毎の実施内容については、現在調整中。			
茨城県(日立市、高萩市、北茨城市)				
福岡県(大牟田市、筑後市、大木町)				
東京都(江東区・八王子市)				
名古屋市・津島市				
京都市				
水俣市				

使用済小型家電の郵送回収モデル実験について（案）

趣 旨

- 現在、ボックス回収、ピックアップ回収、ステーション回収、集団回収・市民参加型回収及びイベント回収により、使用済小型家電の回収モデル事業が各地域で実施されているところ、本市では、市民にとってより利便性の高い回収システムの一つとして、日本郵便と連携した郵送回収モデル実験の実施を検討している。
- モデル実験の概要は、別添のスキーム図（案）のとおり。

郵送回収方式のメリット・デメリット

【メリット】

- 全国展開が容易
- 申請者は、住所・氏名を登録することになるので、故意の異物混入の抑止効果が期待できる。
- ポスト・窓口・配達員のいずれの方法も利用可能であり、利便性が高い。

【デメリット】

- ボックス又はピックアップ回収方式と比較して、回収コストが高額（約300円/1個）
- ※ 第5回研究会コスト試算結果
・約30円～約150円（必要コストのみ）

検証内容

- コスト分析（スキームのスケールメリットの検証）
- 郵送回収における課題の抽出
- 製錬所への直接郵送の可能性検討

使用済小型家電の郵送回収スキームについて（案）

- 専用WEBページによる申請に限定した使用済小型家電の郵送回収を検討中。
- モデル的に6月頃から1か月程度実施する予定。
 - ※ 回収対象品目は、携帯電話を中心に今後検討。対象地区も限定する。
- 申請者に対し、回収用封筒を送付し、日本郵便の既存の郵送ツールを活用して回収を行う。

【スキーム（案）】

